

平成 22 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査  
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

## 目 次

I 調査の概要	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
III 教科別調査結果の概要	
国 語	2
社 会	4
数 学	5
理 科	7
英 語	9
* 得点の度数分布グラフ	1 1
* 平均点推移グラフ	1 7
* 正答率調査表	1 9

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

平成22年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

### 2 実施日、調査教科

平成22年3月4日（木）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

### 3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,889人（男子2,596人／女子2,293人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は493人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

## II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないようにし、思考力、判断力、表現力等を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

### 2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は269.2点で、前年度より25.8点低い。最高点は455点、最低点は47点であり、その得点分布は（図1-1 P11）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は270.1点（前年度比-26.5点）、女子は268.3点（前年度比-24.6点）で、男子が女子より1.8点高い。その得点分布は（図1-2 P11）に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成18年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1-3 P17）のように推移している。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、平成20年度から低下傾向にある。

### Ⅲ 教科別調査結果の概要

#### ○ 国 語

##### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「言語事項」の内容と、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」をもはかる分野を網羅して検査するものとし、併せて全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。
- ② 出題量及び出題内容は、検査時間内で解答できるようにし、設問の表現も受検生にわかりやすいものにした。
- ③ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

##### 2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は59.9点で、昨年に比べて12.9点低い。最高点は99点、最低点は6点で、その得点分布は(図2-1 P12)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は58.5点、女子は61.4点で、女子が男子より2.9点高い。その得点分布は(図2-2 P12)に示すとおりである。

##### 3 平均点の推移

平成18年度からの5年間の全体平均点は、(図2-3 P17)のような推移である。平成19年度から学力検査の仕組みが変更になったため、5年間を同一の視点で比較することはできないが、平成22年度は、平成19年度並の平均点となっている。

平成18年度以前には男女の平均点の差が5点程あったが、平成19年度以降、差の開きは4点以内になっている。

##### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

###### ㊦ 言語事項(漢字・書写・語彙)

一、二では、生徒の親しみやすさに配慮し、親近感のある文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書取りを出題した。全般的によくできているが、「請(ける)」が読めない、二のエの「やしなう」の無答数の割合の高さなど、日常生活の場面における漢字についても、必ずしも確実に身に付いているとは言い難く、課題がある。

三の書写は、行書で書かれた「歴史」について、その行書の正しい特徴をつかむことができるかを問うものであるが、正答率は61.3%であった。

四の四字熟語に関する問題は、正答率が35.9%と低く、熟語の組み立てについての指導の工夫が求められる。

###### ㊦ 話すこと・聞くこと

一は、話をするときの、語句の選択と文の効果的な使い方を問う問題であり、二は、話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、論理的な構成や展開を考えられるかを問う問題であり、正答率は、それぞれ89.5%、84.2%であった。

実際の話すこと・聞くことの場面では、発声や声の大きさ、間の取り方、イントネーションなど、音声表現上の指導の工夫も大切である。

### ㊦ 説明的文章 出典 「省略の文学」 外山滋比古（中央公論社）

「徒然草全注釈 上巻」 安良岡康作（角川書店）

一は、文章の展開をとらえ、内容を理解し、適切な語句、キーワードを抜き出す問題であるが、正答率は29.2%と極端に低く、課題がある。二は、文章の展開に沿って内容をとらえ、出題に応じた判断ができるかを問う問題で、正答率は52.6%であった。三は、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容を理解し、そのことをどう表現することができるかを問う問題であり正答率は61.7%であった。四は、文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができるかを問う内容把握の問題で、正答率は46.7%と、5割を切っている。五の（1）は、古文の文法、「係り結び」に関する問題である。この正答率は42.0%と低く、中学校での古文指導の在り方に課題を残した。（2）は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は46.9%であった。（3）は、古文とそれに対応する現代語訳を手がかりに、文章の展開を文脈に沿って類推する問題であり、ねらいとしては、様々な文章から必要な情報を集めるための読み方が身に付いているかを問う問題である。正答率は43.4%であった。

### ㊧ 文学的文章 出典 「本日開店」 ねじめ正一（新潮社）

一は、「言語事項」の問題である。ねらいは、事象や行為などを表す語彙について理解しているかを問うもので、正答率は77.5%であった。二は、文章の展開に即して人物の心情をとらえることができるかを問う問題で、正答率は、85.8%と、よくできていた。三は、文脈の中の語句の意味を正確にとらえられるかを問う問題で、正答率は、73.0%であった。四は、表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、文章の形態や展開の違いに気づくことができるかを問う問題で、正答率は50.9%であった。五は、比喩的に表現された語句と類似した語句を文章中から探すという問題であるが、正答率は10.8%と低かった。比喩が示す対象としてふさわしい語句かどうか十分に吟味していないことが原因と考えられる。六は、文章の展開の中で、人物の心情をとらえることができるかを問う問題だが、正答率はC、Dとそれぞれ78.3%、64.2%であった。七は、表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、文章の形態や展開の違いに気づくことができるかを問う問題で、正答率は34.1%と低かった。選択肢に挙げられた文言を細部まで十分に読み取れていないことが原因と考えられる。八は、「書くこと」領域の問題である。文章を読んで、「行事やイベント」での経験をとおして学んだことを、体験の場面で比喩表現を使いながら記述できるかを問う問題で、配点15点のうち、0～5点の分布の計が16.8%、6～10点が62.3%、11～15点が20.8%であった。

## 5 全体を通しての考察

常用漢字の読み書きなどの基本は、おおよそ身に付いているが、徹底していない一面もある。また、語句の意味や用法、成り立ちに関することや、表現の仕方や文章の特徴を把握し、文章の展開をとらえ、内容を理解することなどにおいて不十分な面があり、今後一層の指導の工夫と改善、学習の定着が望まれる。

例年と同様に、考えて書く記述式の問題の正答率が低い傾向にあり、一方、選択式の問題においても正答率の低いものがある。文章や問題文の内容について正確に読む力が十分に習得されていない現状があり、一層の読解力の育成を図る必要がある。

今後は、論理的に文章を読み取って考えをまとめる力、そのまとめたものを自分の考えをもって表現する能力の育成とともに、その基盤となる、読むことの力に係る基礎的・基本的な知識・技能についての指導を徹底する必要があると思われる。

## ○ 社 会

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野，歴史的分野，公民的分野の三分野にわたって，基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真，図，表，グラフなどの資料を通して，思考したり，判断したり，表現したりする力を問い，また多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに，身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

### 2 得点別にみた度数分布

平均点は52.9点で，前年度より4.2点低かった。最高点は99点，最低点は0点であった。得点分布は（図3-1 P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると，男子は54.5点，女子は51.0点で，男子が女子より3.5点高い。その得点分布は（図3-2 P13）に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成18年度から今年度まで5年間の社会の平均点は（図3-3 P17）のように推移している。平成20年度から続けて数点ずつ低下しているが，出題形式の違いなどもあるため単純な比較はできないが，思考力や表現力を問う問題の増加も影響していると思われる。また，男女別比較でみると男子が女子を上回る傾向が続いている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P19）

#### 1 地理的分野

気候区分や経度・緯度など日本列島の地理的環境に関する問題，あるいは，日本の主要工業製品の歴史的推移に関する問題などの正答率が高く，日本に関する地理的学習は十分行われていることがうかがえた。しかし，地図からその国名や主な宗教を答える問題など，世界の国々に関する分野では正答率がそれほど高くなかった。

#### 2 歴史的分野

日本の歴史に関する基礎的・基本的事項の理解はある程度定着しているようである。しかし，時代の特徴を大きくとらえたり，時代を画するいくつかの出来事の前関係など，時代ごとの特徴をその時代の大きな流れの中に位置付けて理解する力が求められる問題での正答率が低かった。

#### 3 公民的分野

平和に関して非核三原則を答える問題，株式会社のしくみに関して配当を答える問題など，基礎的・基本的事項を問うた問題での正答率が高かった。その反面，衆議院や参議院のしくみに関する問題など，選択肢の一つひとつの内容について正確な理解が必要となる問題での正答率が低かった。

#### 4 三分野総合

国ごとの二酸化炭素の排出量を示す資料から国名を特定する問題や，山梨県を含むいくつかの道府県の産業の様子を示す資料と地図から静岡県を特定する問題など，資料を読み取って判断する問題では，日本に関する問題は正答率が高く，世界に関する問題では正答率が低かった。地球温暖化が日本の経済水域に及ぼす影響についてまとめる記述問題での正答率は高かった。

## 5 全体を通しての考察

地理的分野、歴史的分野、公民的分野のいずれにおいても、日本に関する問題では、基礎的・基本的な知識や理解は身に付いていることがうかがえる。

しかし、テーマが世界に広がっていったとき、若干の課題があるように思われる。たとえば、地理的分野においては、世界の主な国や宗教、大陸や島の分布、地球の自転と日付の関係など、歴史的分野においては、イギリスの産業革命とアジアへの進出など、また、公民的分野においては、環境問題への世界的な取り組みに関する問題など、世界に目を向けて出題された問題に対して、個々の事項についての知識や理解にやや不十分な点があるのではないか。そのために資料を使つての出題に対しても一歩踏み込んだ判断ができないことが多かったようである。このような問題できちんと正答できるかどうかで得点に違いが生じたように思われる。

日頃の学習においては、地図や年表などを十分に活用しながら、日本から世界へ、あるいは世界から日本へ、という視点を持って学習する姿勢が求められる。また、社会的事象に対する思考力や判断力、表現力は、個々の事象についての確かな知識や理解と一体のものであるということも忘れてはいけない視点であると思われる。

## ○ 数 学

### 1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、数量関係の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的な表現・処理の能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する場面を設けた。
- ② 知識や技能を数学的な見方や考え方により活用し、解決する場面を重視した。
- ③ 複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。
- ④ 思考過程や問題解決の手順などが検査できるように、記述式の解答形式を取り入れた。

### 2 得点別にみた度数分布

平均点は47.9点で、昨年より4.1点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子49.1点、女子46.6点で男子が女子より2.5点高い。その得点分布は(図4-2 P14)に示すとおりであり、55点以上において、男子の構成比が女子のそれを上回っている。

### 3 平均点の推移

平成18年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P18)のように推移している。数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、全体では40点台を推移してきた。一昨年、昨年ともに50点を超えたが、本年は40点台に戻った。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

#### 1 「数と式の四則」(基本)基礎的・基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中3問が90%を超え、そのうち2問は95%を上回った。最も正答率の低いものは、根号を含む計算であったが正答率は79.5%であり、基本的な計算処理については、ほぼ十分な定着がうかがえる。

**2** 「基礎的事項」(基本)基礎的な知識に基づく表現・処理ができるか。

5問中80%を超えたのは倍数を表す式、2次方程式であった。一方、確率は55.4%と想定を大きく下回った。作図問題では、知識の活用を求める問題としたが、正答率は42.4%と想定を大幅に下回った。

**3** 「規則性」(標準)身近なさいころを用いて、目の数の和についての規則性を題材とした。まず規則性を見いだすこと、次にその規則を利用して正しく処理すること、さらに規則を考察し文字を用いて表現すること、そしてその処理過程を説明することができるかを問うた。

1, 2の規則性を見いだすこと、正しく処理することは想定を上回り正答率は80%以上であった。一方で、文字を用いて処理することとその説明をすることでは、想定を大きく下回る24%程度の正答率であった。自分の考えを式や言葉を用いて説明することは定着が不十分である。

**4** 「平面図形」(標準・応用)2枚の折り紙の重なった部分にできる図形について出題した。図形に関する知識や技能を用いて考察し、的確に表現・処理することができるかを問うた。また、予想が正しい理由の記述を求めた。

全体に低い正答率であった。1の面積を求める問題の正答率は71%で、想定を大きく下回っている。様々な図形の見方について一層指導する必要がある。2の(1)三平方の定理を用いての長さの問題で13%、(2)合同の証明問題で20%、(3)予想が正しい理由を説明する問題では3%の正答率であった。

証明では、久しぶりに合同を扱った問題に戸惑いがあったこともあろうが、角度の和(差)を考えての証明なので、図形の見方に慣れていない受検生にとっては難しい問題だったと思われる。

正しいことの説明では、多くの受検生が求められたことを的確に把握し、言葉を用いて端的に表現できなかったと考えられる。

**5** 「関数」(標準)関数のグラフについて、基礎的な事項を求めたり、図形の性質と総合して考察することができるか。

1の比例定数を求める問題が64%、2の「変域」を求める問題が51%、3の「変化の割合が等しくなる」場合を求める問題が12%の正答率であった。いずれも一度は教科書で習ったことがある基本的な問題と考えるが、正答率は想定を大きく下回っている。

4は三角形の面積の2等分問題である。一般的には「等積変形」を用いて考察するが、様々な考え方ができる問題である。粘り強く考え抜いて欲しかった。正答率は9%であった。

**6** 「空間図形」(標準・応用)空間図形を、基礎的な知識や技能を活用して、多面的に観察・考察し、展開図上の平面図形として、的確に処理することができるか。

全ての問題で想定を大きく下回る正答率であった。1の円錐の展開図は1年生の内容であるが、正答率は42%にとどまった。1はその後の問題に取り組むためのヒントを与えるものとして設定した問題であり、2で考察を進め、3で2を活用するよう、問題は構成されている。

空間の認識と展開図における平面内での三平方の定理の活用や、直径と円周角の関係など、様々な分野の力を総合して考えることができるかどうかを見ようとした出題であった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え方が要求される設問や、複数の領域の内容を総合して扱う設問では若干の課題がある。身近な場面や数学的な事象に、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用することにより、数学的なものの見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身に付けることが求められる。また、多様なアプローチができる問題に、様々



な角度から取り組む経験や、ねばり強く考えること、自らの考えを言葉で表現したり、式・図形などを用いて数学的に表現したり説明したりすることを習慣化することが必要である。

## ○ 理 科

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 新学習指導要領の範囲からの出題も含め、学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。
- ④ 思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 日常的な自然現象に関心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。
- ⑥ 身近な材料を使い、学習内容を確認することで、理科の有用性を感じることができるよう配慮した。
- ⑦ 第1分野、第2分野にわたった出題を通して、生徒が理科を総合的に考える習慣を身に付けられるよう工夫した。

### 2 得点別にみた度数分布

平均点は、46.2点で前年より3.7点低い。最高点は97点、最低点は0点で、その得点分布は(図5-1 P15)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は47.8点、女子は44.5点で、男子が女子より3.3点高い。男女別の得点分布は(図5-2 P15)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成18年度から今年度までの5年間の全体平均は(図5-3 P18)のように推移している。平成21年度から平均点が低下したが、これは解答の根拠や説明を求める論述形式や、完全解答を増やしたことで、理解が不十分だと得点につながりにくくなったためだと考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

#### ① 「植物のからだのつくり」に関する問題

双子葉類(被子植物)の維管束の模式図を基にして、その並び方の特徴や名称を問い、植物分類の基本的な視点を理解しているかを確認した。また、茎の中での道管の位置を調べる実験・観察方法を説明することができるか、道管と師管の茎における位置関係や双子葉類の葉での道管の広がりや、葉脈の理解と関連付けて、図に表現できるかを確認した。実験・観察方法の論述に課題が見られた。

#### ② 「天体の運動」に関する問題

昨年話題となった天文現象を取り上げ、日常における自然現象に興味・関心があるかを確認した。惑星が太陽の光を反射して輝いていることや、実際に天体望遠鏡で観察したときに起こる現象が理解できているかを確認した。金星の形と見かけの大きさの変化を、太陽系の構造と関連付けて科学的に思考できるかも確認した。2(3)は、地球と金星両方の運動を考えさせる問題であったが、予想を上回る正答率であった。

**3** 「中和」「イオン」に関する問題

駒込ピペットの使い方を通し、基本的な実験器具の使用が適切にできるか、中和で起こる反応を正しく理解し、間違いやすい中性との違いを明確に区別して考えることができているかを確認した。さらに新課程で学習する電解質が水溶液中で電離していることが新しい知識として定着しているかを確認した。新課程の電離のモデル図は高い正答率であった一方、中和で生じる物質の理解には課題が見られた。

**4** 「仕事」「エネルギー」に関する問題

新課程からの出題であった。仕事の定義を理解し、エネルギーとの関連を考えることができるかを確認した。また、動滑車などの道具を使用する意味や利点について正しく理解できているかを確認した。仕事とエネルギーの関係について考えさせた問題では、現象の理解、理由の論述ともに正答率が低かった。

**5** 「刺激と反応」「音・光の速さ」に関する問題

外界の刺激に対して反応するしくみや脊髄での反射の経路について、正しく理解できているかを確認した。また、音に反応する実験から、空気を伝わる音の速さを考えながら、刺激を受けてから反応するまでに要する時間を導き出す科学的な思考ができるかを確認した。さらに、日常での場面を1年生で履修した光と音の速さと関連付けて思考できるかを確認した。計算問題は、正答率が低かった。

**6** 「電気分解」に関する問題

化学の基本として、水、塩酸、塩化銅水溶液の電気分解について、電気分解の様子を表した図や、電気分解の電極と分解によって発生する気体に注目して、実験方法や発生する気体を正しく理解しているかを確認した。また、塩化銅水溶液の電気分解について、化学反応式で正しく表すことができるかを確認した。この化学反応式に関しては、正答率が予想以上に低かった。

**7** 「雲・霧のでき方」に関する問題

雲や霧のでき方についてまとめた文を読み、上昇気流による雲や、雲をつくる上昇気流のでき方を理解しているかを確認した。また、気温と飽和水蒸気量のグラフから、空気1 m<sup>3</sup>中の水蒸気量を計算で求めることができるかを確認するとともに、与えられた条件を霧のでき方に当てはめて、霧のでき始める気温を求められるかを確認した。上昇気流のでき方を確認した論述には、やや課題が見られたものの、比較的良くできていた。

**8** 「光」に関する問題

「逆さ富士」をテーマとして、光の進み方を理解しているかを確認した。また、「立体視」の条件を、第2分野で学習したことを基に表現できるかを確認するため、分野をまたがった出題とした。このような見慣れない問題に対して、基礎的な知識を活用して科学的に考察する力には、大きな課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力を、思考力や表現力が測れる形式を多く取り入れて出題した。例年通り、短答式の問題では正答率は高く、学習の成果が見られた一方で、計算問題や論述問題に課題が残る結果であった。また、新課程の範囲からの問題では正答率が低かった。受検に向けた学習が、典型問題の演習によるパターン認識の訓練になっている感がある。日常生活での「なぜ？」を学習した知識を活用して思考する力や、その過程を表現する力の育成が望まれる。

## ○ 英 語

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標および内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を30%とした。
- ③ 「読むこと」については、使用語数を増やすことで長文化を図るとともに、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した内容に関連した質問に対して自分の考えを書かせ、自己表現を促す問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

### 2 得点別にみた度数分布

平均点は62.3点で、前年より0.9点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その分布は(図6-1 P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は60.2点、女子は64.7点で、女子が男子より4.5点高い。男女別の得点分布は(図6-2 P16)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成18年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P18)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度とほぼ同程度だった。大問1～3は「聞くこと」に関する力を検査しているが、昨年同様に平均点は高く、受検生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがえる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より30語程度増やし、まとまった英文を速く的確に理解する力を検査できるようにしたが、英文量を増やしたことが平均点に大きな影響は与えておらず、受検者の「読むこと」に関する力については、ついていいると考えられる。

また、男女別比較でみると、昨年同様女子が男子を上回っている。今年度においては、その差は4.5点と昨年の3.8点に比べ差が広がっている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

#### ① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、その内容に係る絵を選ぶ問題。日常生活でよく目にする物事に関する英語の説明を聞き、それが何の説明であるのかを聞き取る問題である。音声とイメージを直接結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

平均正答率は83.3%と昨年度(86.5%)を若干下回っているが、基本的な聞き取る能力は良好といえる。

#### ② 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

英文を聞き取って、その内容に関する質問の答えを、放送される選択肢から選ぶ問題。基本的な日常会話表現を中心に、文法的知識を活用する問いも含め、英語で表現するための基本的な能力を評価できるようにした。

平均正答率は、73.3%であり、日常的に使われる慣用表現はほぼ定着していると考えられる。

### 3 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりするための短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題。

平均正答率は74.2%と昨年度の69.1%を上回っている。4の正答率が48.1%と他と比較して低かったのは、読まれる英文の文脈から判断して解答を導く力が求められたためと考えられる。

### 4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生のみどりがホームステイ先のカナダのオタワから、日本にいるJaneにホームステイ先での生活等について、英語で手紙を書いた内容である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料（単語、文法等）についての知識や、文脈を把握する能力、英語を言い換えて表現する力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を、評価できるようにした。また、単語の空欄補充問題では、本文中には出てこない単語を文脈や文法知識を活用して解答させたり、英文補充問題では、複数の英文を文脈に合わせて補充させる形式を取り入れたりして、様々な観点から読解力や基本的な表現力を評価するようにした。また、語数を昨年度比で30語程度増やし、まとまった英文を速く的確に読み取る力を検査できるようにした。

設問4の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題は、正答率（満点）が10.8%と低かった。また、0点の者が64.4%いた。受動態を使って英語を書くことを趣旨としているが、基本的な文法知識を使って英文を書く力に課題を残す。

設問5も設問4同様に英文を書かせる問題であるが、正答率（満点）は25.8%と低く、0点が27.2%であった。この問題は、比較の最上級と主節・従属節の文構造を含んだ英語を書かせる点がポイントになるが、基本的な英文であり、英語を使って表現する力に課題がある。

### 5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の友樹が、祖父と畑でじゃがいもを収穫した経験から、日本の食物について関心を持ち、インターネットで調べたデータやそれを基に考えたことをイギリスに住む友人のJohnにメールで伝えている内容である。質問の答えを選択させたり、内容をまとめた英文を完成させたり、英文の内容を簡単なグラフにして考えさせたりすることで、様々な観点から生徒の英文を理解する力を評価できるようにした。また、メールの最後にある食物に関する二つの質問に対し、二つ以上の英文で自分の考えを答えさせることによって、コミュニケーションが成立するように英語で表現する力を評価できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問4は本文の内容を日記の形で視点を変えて要約する問題であるが、平均正答率は30.7%と低かった。正答の単語はいずれも基本的なものであるため、内容を的確に理解する力に課題が残った。

設問5は食物に関する二つの質問に対し、二つ以上の英文で自分の考えを答えさせる問題であったが、正答率（満点）は38.3%と昨年度（47%）より若干下がっている。しかしながら、0点の者も18.5%で昨年度（25%）より減っている。自分の考えを伝えるということをより意識しながら、英語を書くことの指導が求められる。

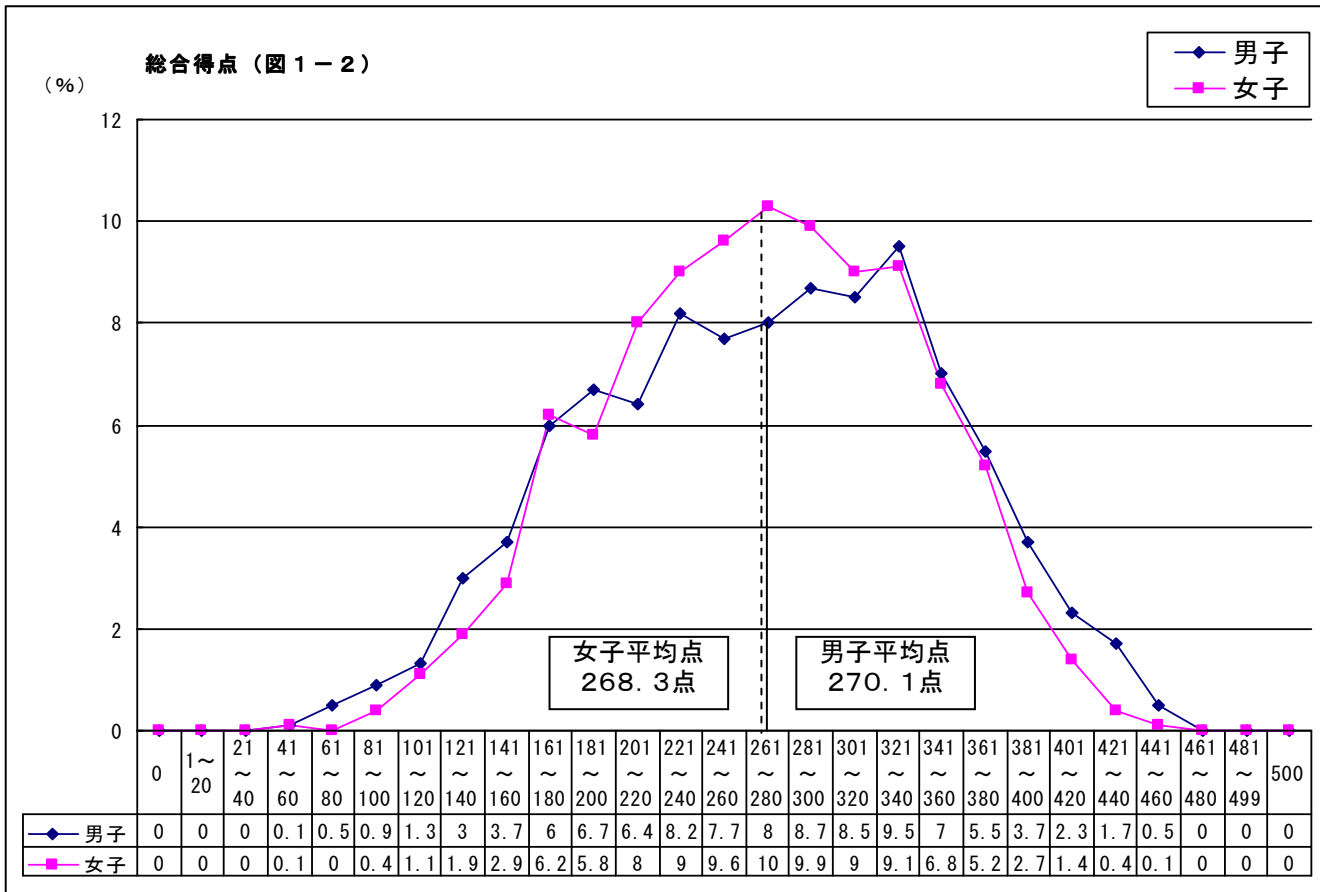
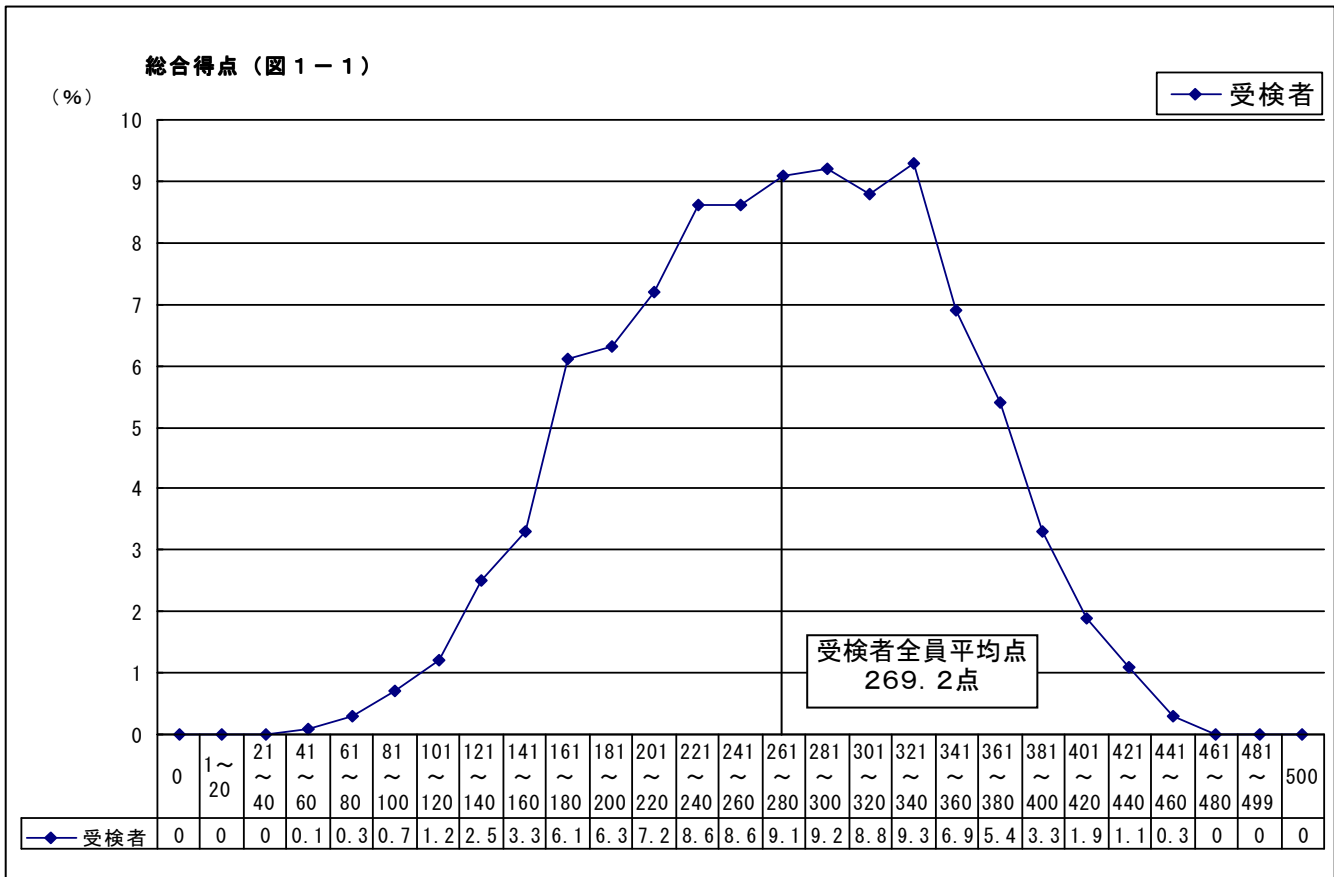
## 5 全体を通しての考察

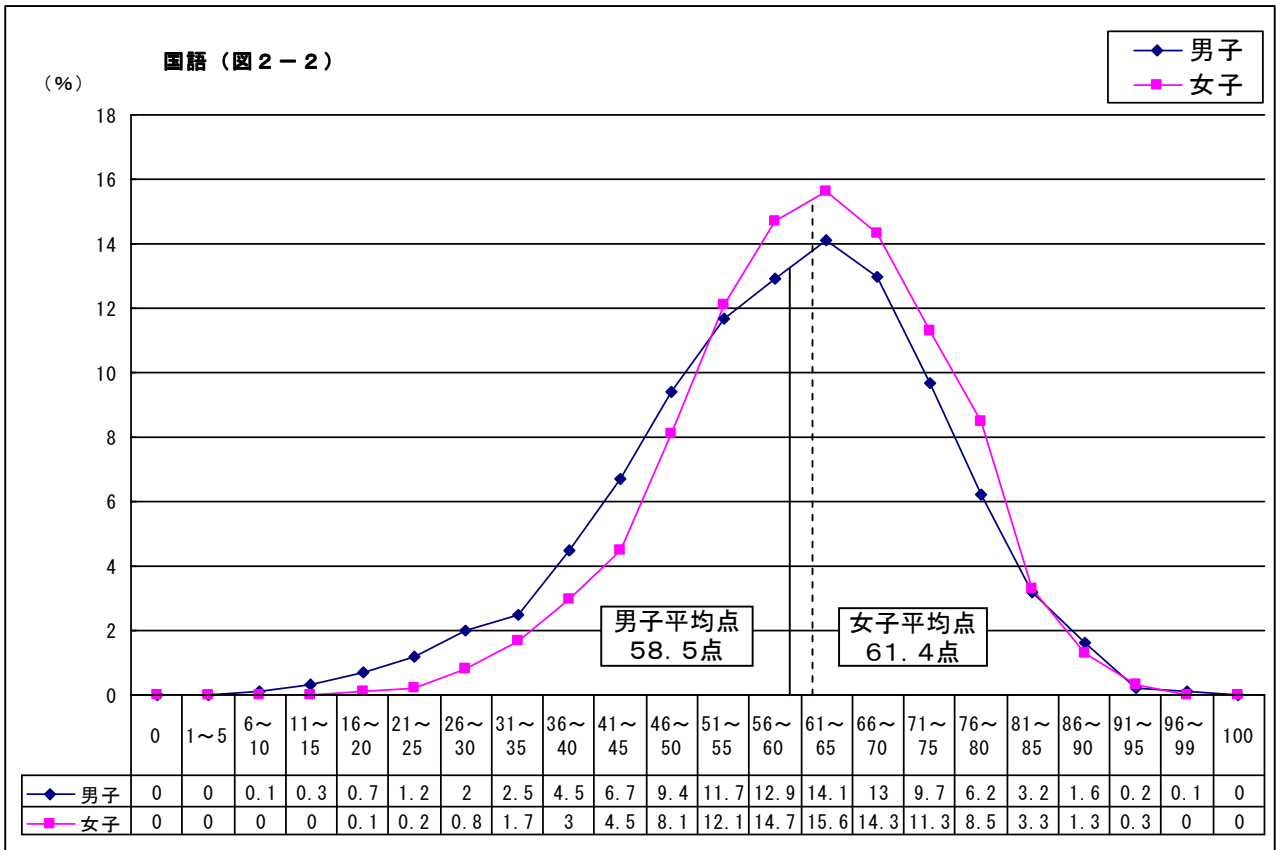
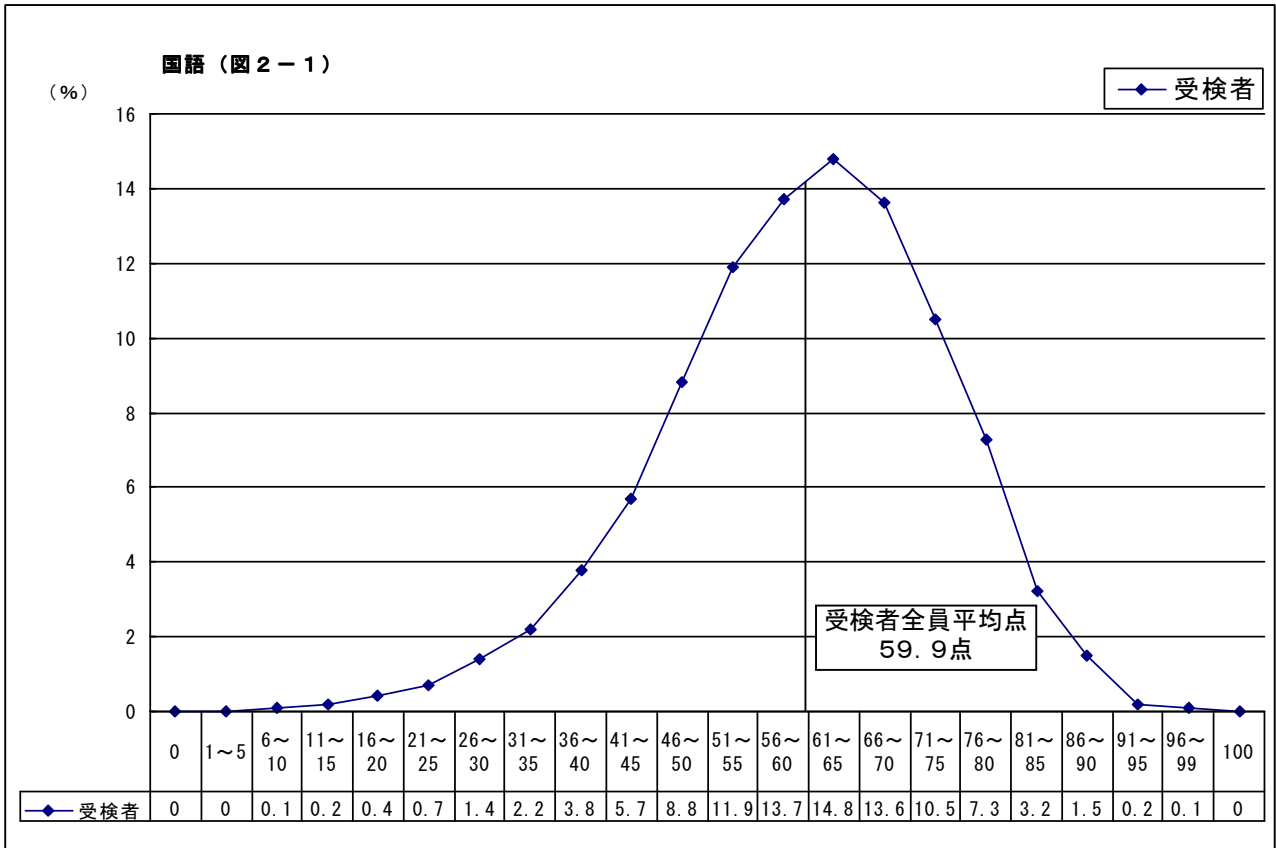
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

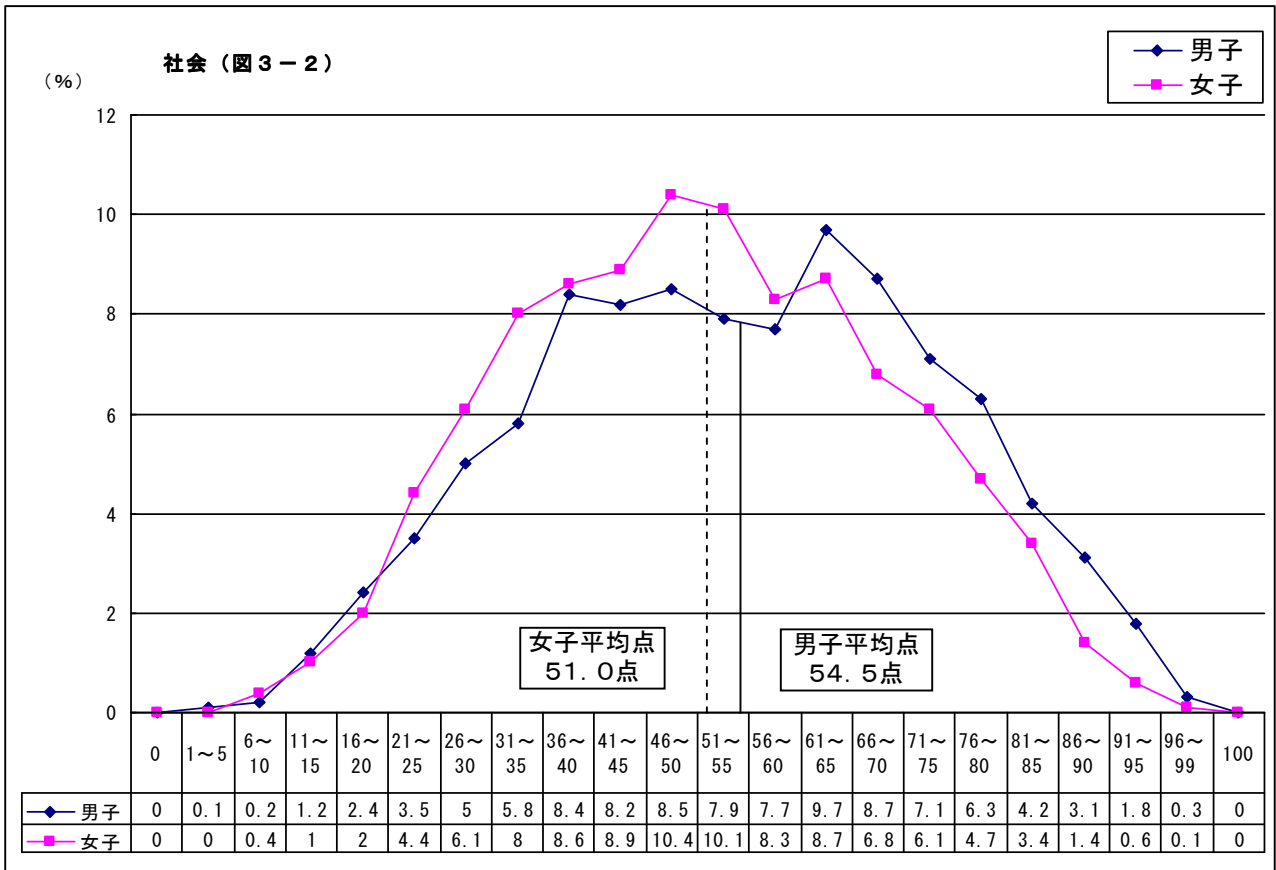
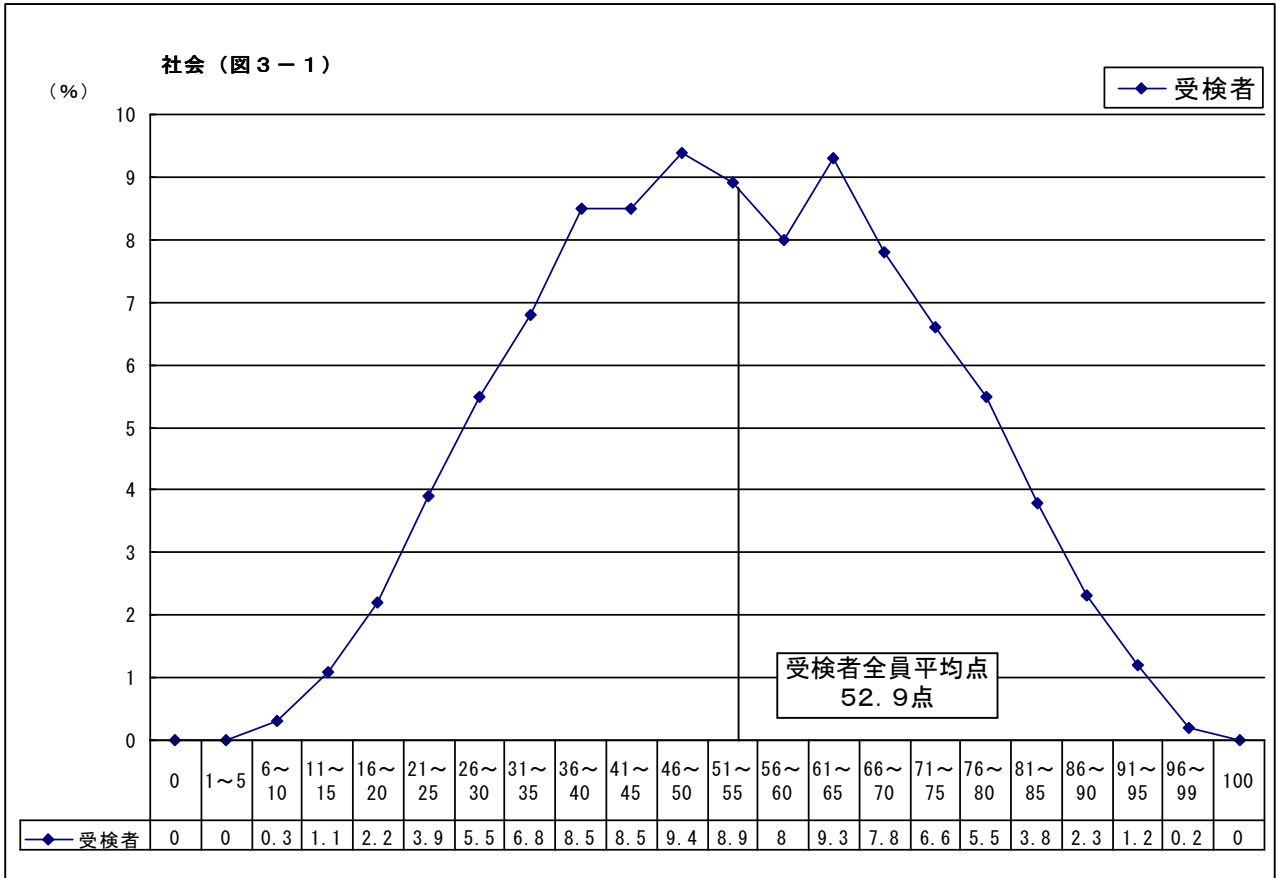
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

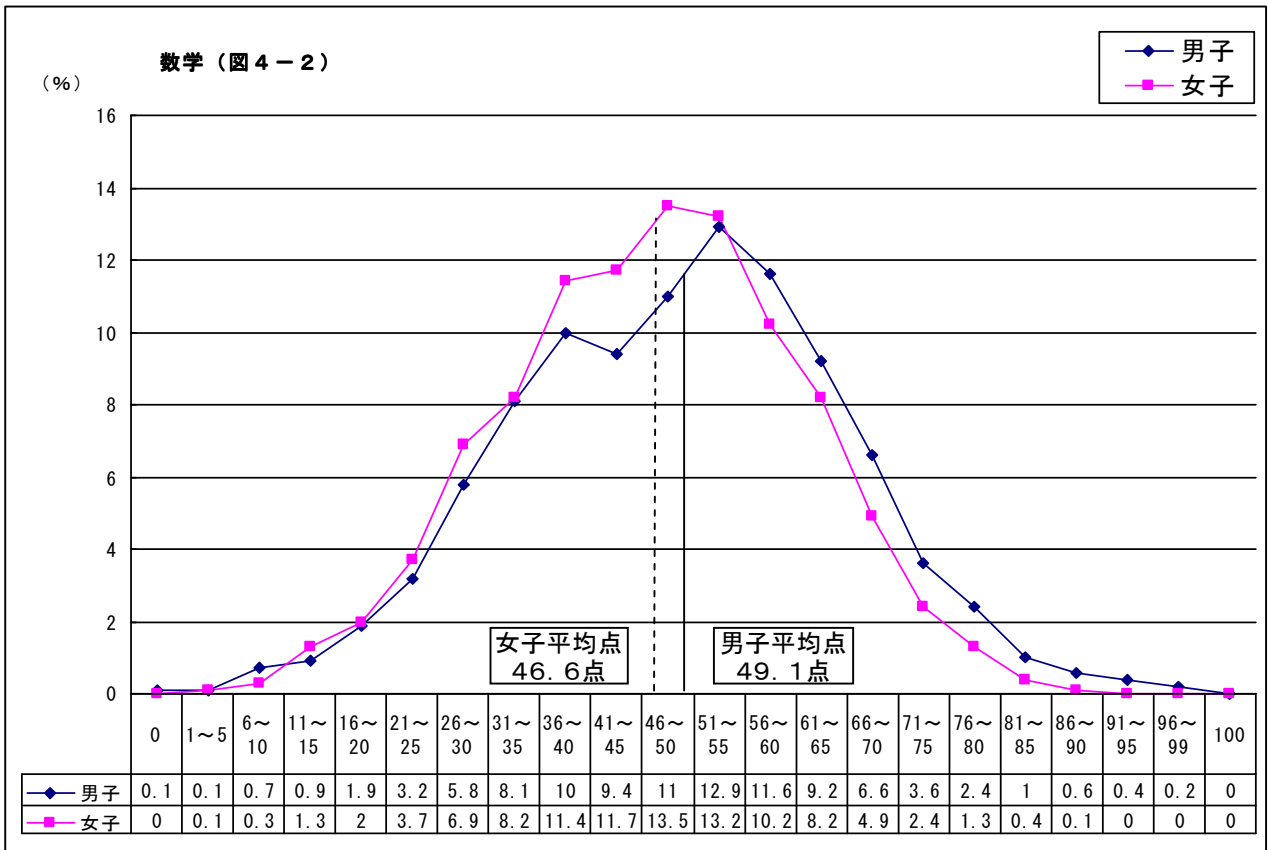
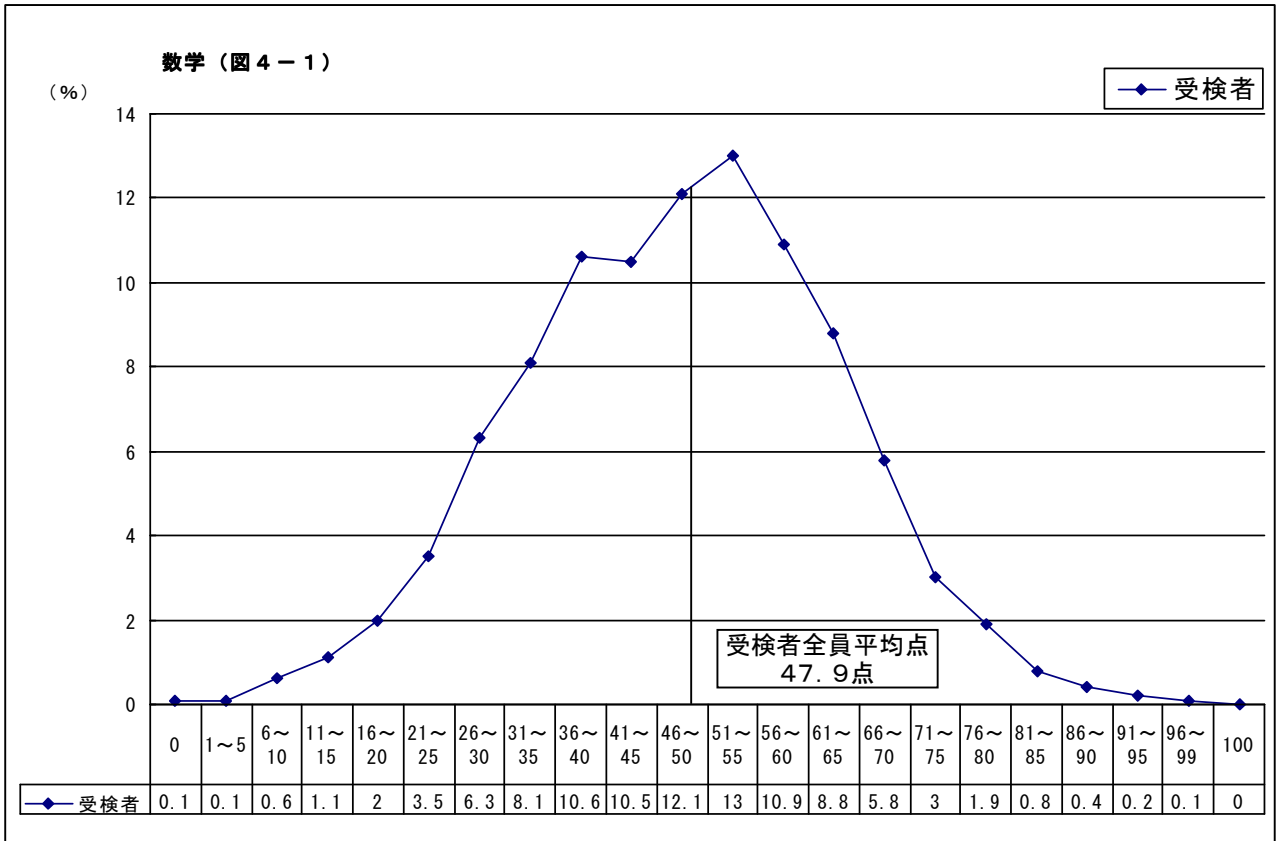
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。全般的には概ね良好な結果であったが、内容を理解した上で要約する力には課題が残る。

「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して、自分の考えを理由と併せて英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項を使って、正確に表現する力の育成も課題である。

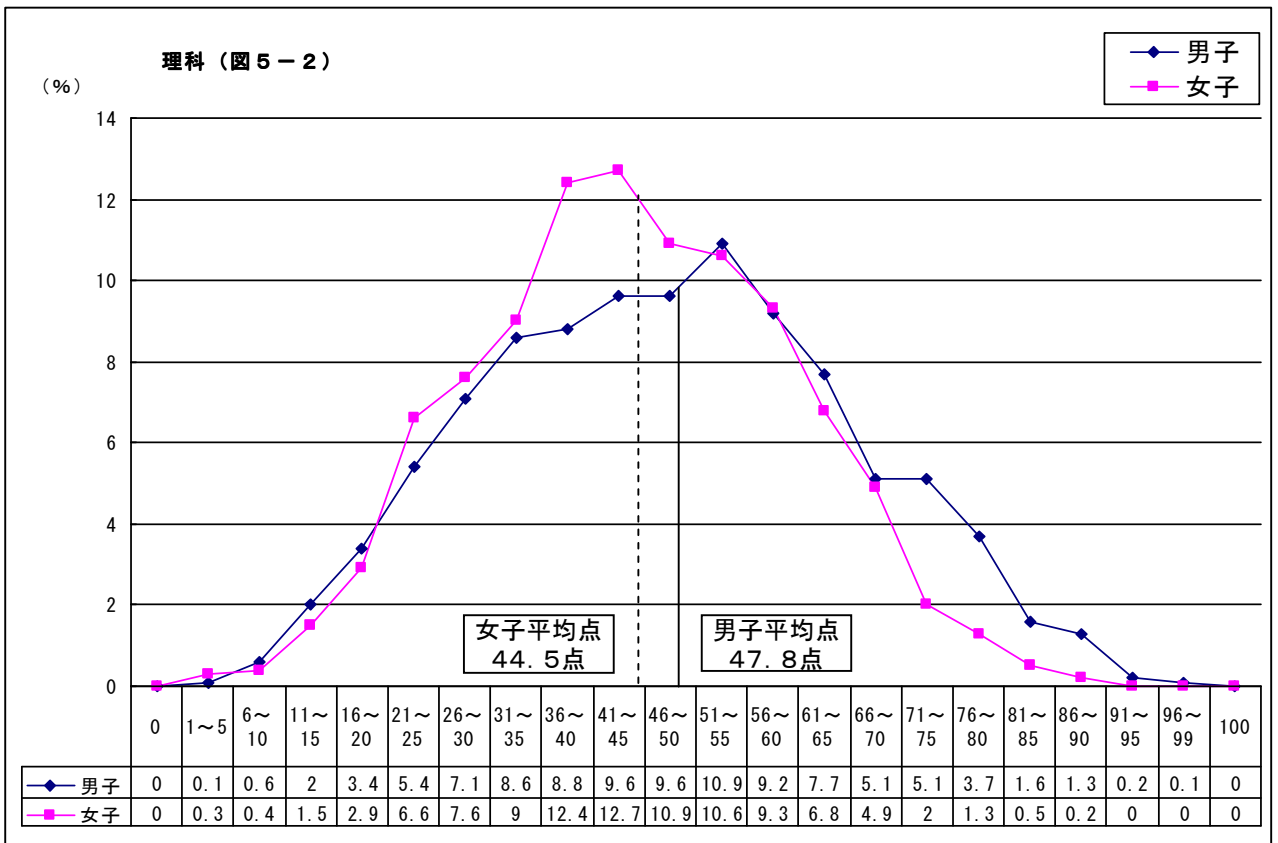
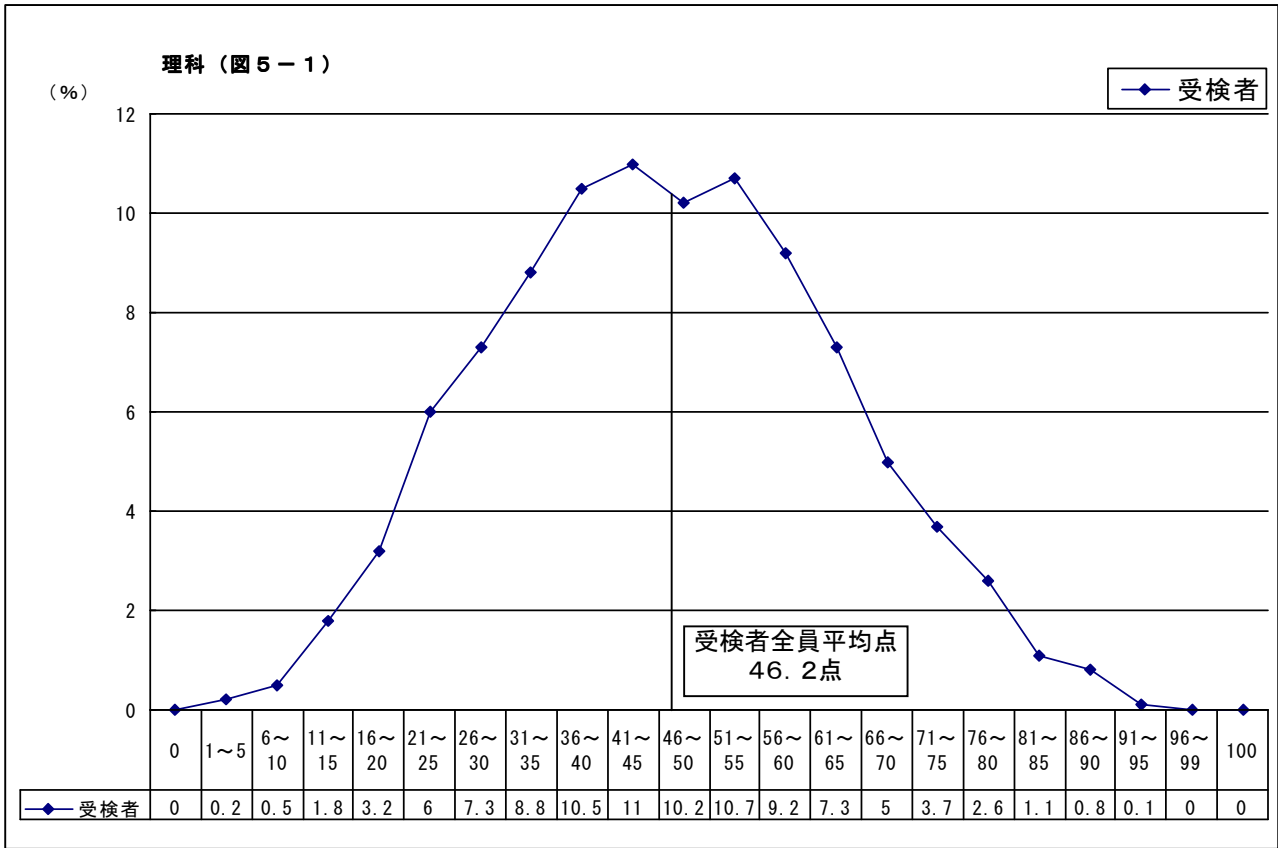






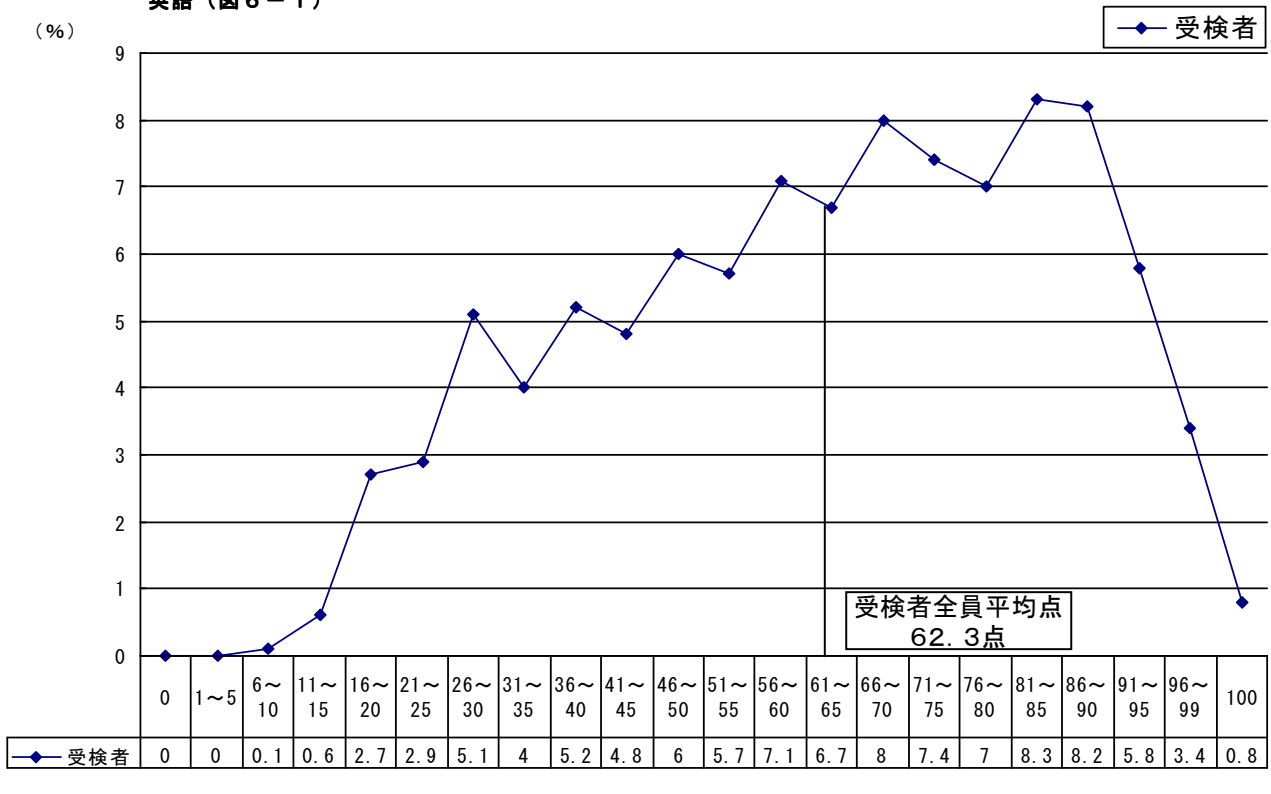






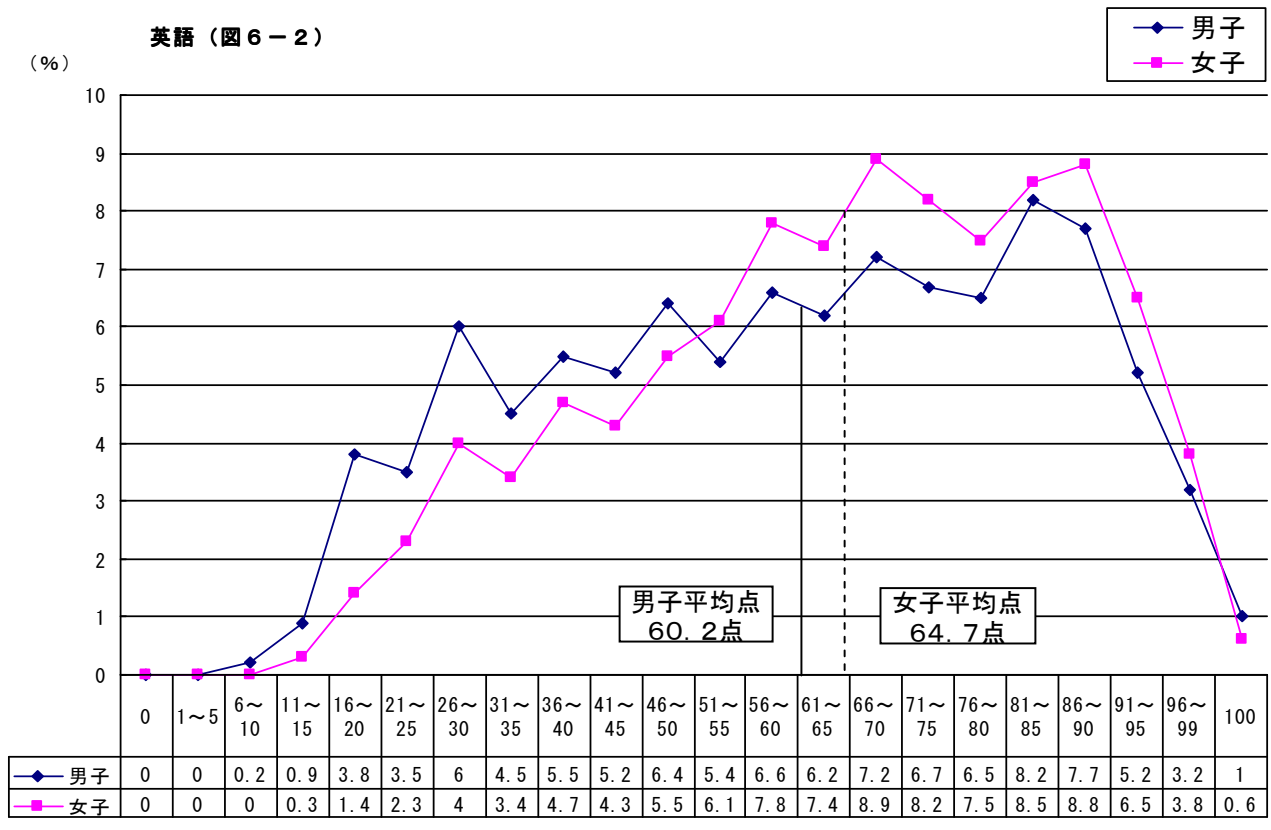
英語（図6-1）

(%)



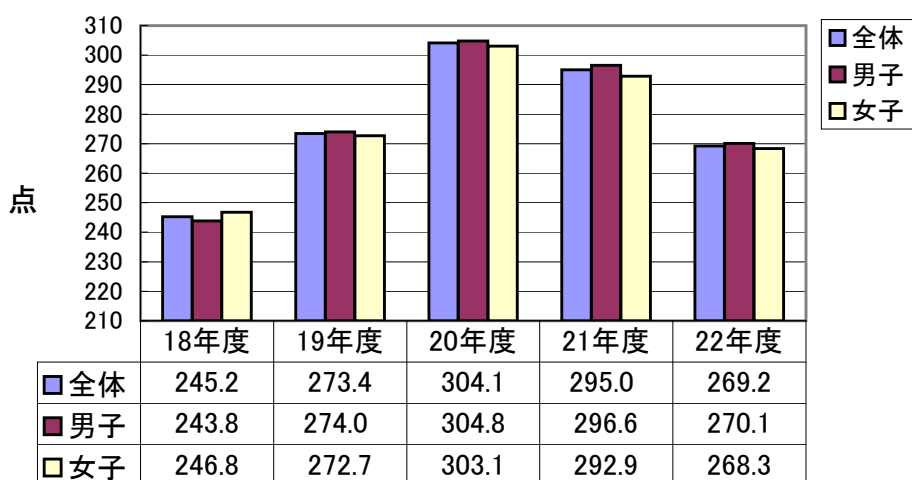
英語（図6-2）

(%)

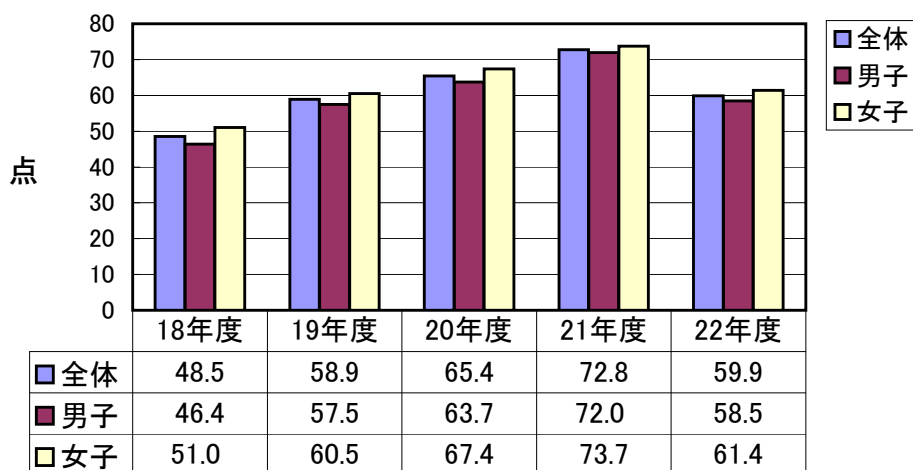


## 平成22年度 学力検査結果

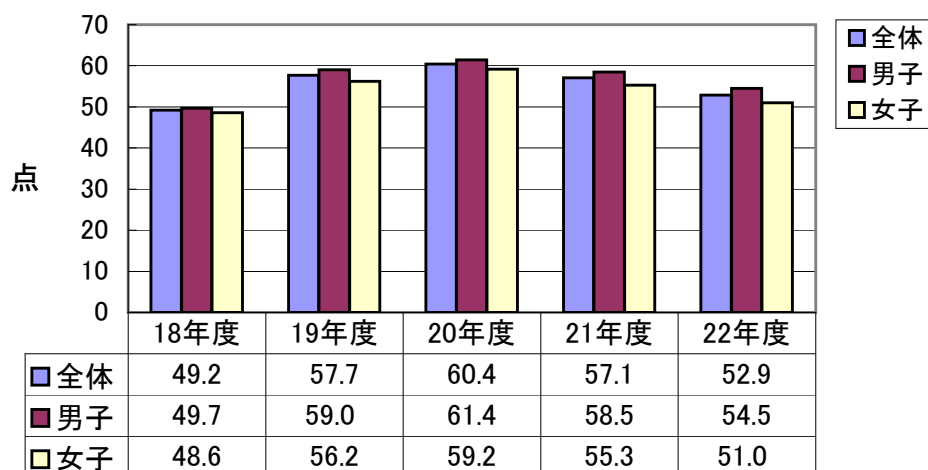
総合平均点(図1-3)



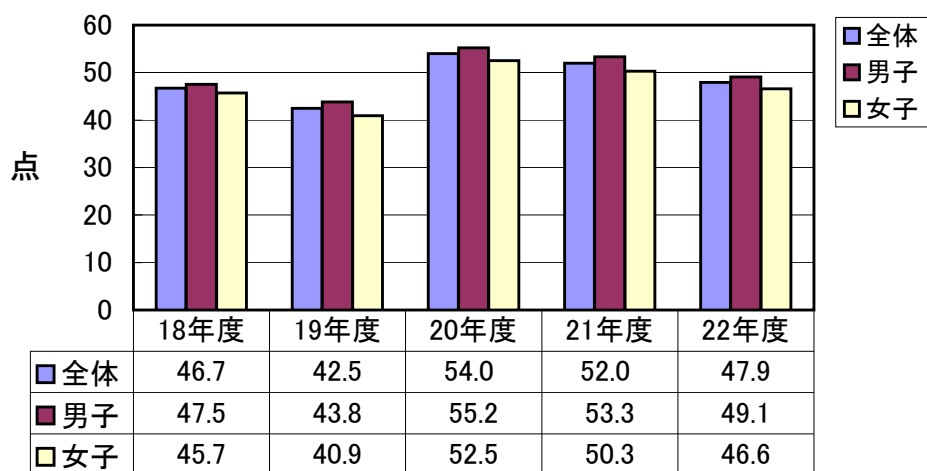
国語平均点(図2-3)



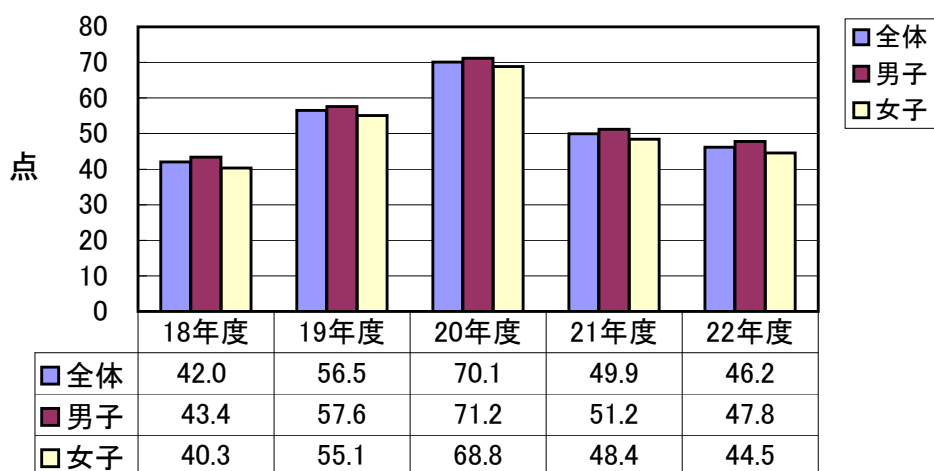
社会平均点(図3-3)



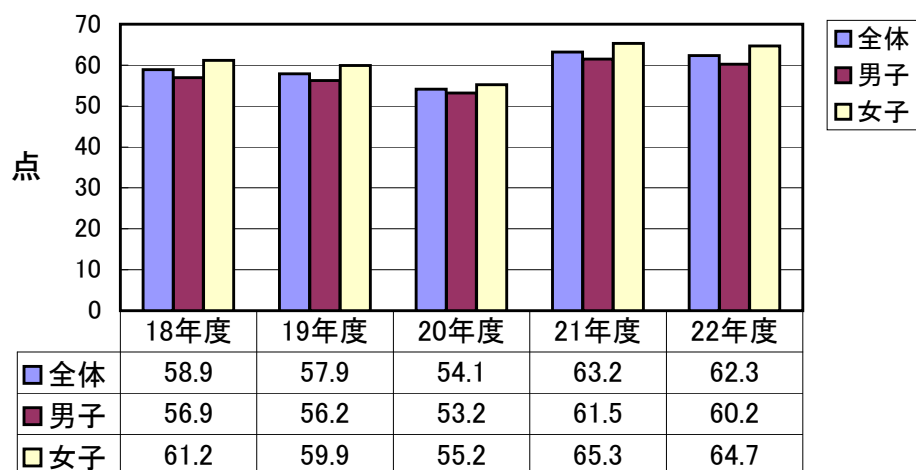
数学平均点(图4-3)



理科平均点(图5-3)



英語平均点(图6-3)



平成22年度 正答率調査表

【 国 語 】

問 題				正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 題				正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
一	一	ア		70.6	26.2	3.2	四	一		77.5	22.5	0.0	
		イ		94.7	4.3	1.0		二		85.8	13.8	0.4	
		ウ		82.2	15.8	2.0		三		73.0	22.7	4.3	
		エ		85.4	12.0	2.6		四		50.9	42.0	7.1	
		オ		31.0	65.7	3.2		五		10.8	88.0	1.2	
	二	ア		95.9	2.8	1.2		六	C		78.3	7.1	14.6
		イ		78.9	13.2	7.9		D		64.2	26.0	9.8	
		ウ		93.5	5.5	1.0		七		34.1	65.1	0.8	
		エ		68.4	11.0	20.6		八	得点	人数(%)	得点	人数(%)	
		オ		77.7	14.6	7.7			0	5.7	8	16.2	
	三		61.3	38.5	0.2	1			0.4	9	12.6		
	四		35.9	63.9	0.2	2			0.6	10	8.9		
	二		89.5	10.5	0.0	3			2.8	11	9.7		
	二		84.2	15.8	0.0	4			2.2	12	6.1		
一		29.2	53.5	17.2	5	5.1	13		3.0				
二		52.6	36.2	11.2	6	11.0	14	2.0					
三		61.7	27.8	10.5	7	13.6	15	0.0					
三	四		46.7	52.3	1.0								
	五	(1)		42.0	52.9	5.1							
		(2)		46.9	51.9	1.2							
		(3)		43.4	55.8	0.8							

【 社 会 】

問 題				正答数(%) (部分点数)		誤答数(%)	無答数(%)	問 題				正答数(%) (部分点数)		誤答数(%)	無答数(%)
1	1	(1)	a		92.9	6.7	0.4	3	1	(1)	3点	29.0	61.1	5.3	
			b		83.2	15.6	1.2				2点	4.7			
	(2)		72.2	26.4	1.4	1点	0.0								
	2	(1)	①		78.7	21.1	0.2		(2)		48.7	50.9	0.4		
			②		41.2	58.2	0.6		2	(1)	3点	25.2	66.1	8.1	
	(2)		87.4	12.0	0.6	2点	0.6								
	3	(1)	ア	3点	24.1	14.0	3.9		3	(2)	3点	89.5	9.3	0.6	
				2点	0.2						2点	0.6			
			イ	3点	9.5				10.3	3	(1)	3点	53.1	45.2	0.8
				2点	0.0							2点	0.8		
			ウ	3点	0.4				5.9	4	(2)		55.6	43.8	0.6
				2点	0.0										
		エ	3点	14.2	17.2	(1)			3点	36.5	34.7	23.1			
			2点	0.2					2点	5.7					
(2)		3点	50.5	46.2	3.2	1		(2)		83.0	16.8	0.2			
		2点	0.0												
	(3)		46.5				53.3	0.2	(1)	①	41.2	58.0	0.8		
	(4)		46.9				52.5	0.6		(2)	3点	50.7	38.9	10.3	
	(5)		41.8				58.2	0.0			2点	0.0			
2	1	(1)		23.7	74.8	1.4	4	1	(2)		73.4	26.2	0.4		
				84.0	15.8	0.2				(3)	3点	36.3	57.8	3.9	
				70.6	29.2	0.2					2点	2.0			
	(4)	3点	65.3	28.4	4.3	2		(1)		39.1	60.4	0.4			
		2点	2.0												
		3点	1.6						3点	31.0			65.8	3.1	
		2点	5.1							2点					0.2
		1点	5.7												
	(5)	3点	1.6	54.8	32.9	(3)		(2)	3点	61.3	11.0	6.7			
		2点	5.1						2点	20.9					
	2	(1)	3点	33.5	59.4	5.3		1	(1)	②	41.2	58.0	0.8		
			2点	1.8											
			(2)							45.0	54.8			0.2	
		(4)	X	2点	74.0	21.9			4.1	2	(3)	3点	61.3	11.0	6.7
1点				0.0											
Y			2点	58.2	26.6		8.1								
			1点	7.1											

## 【 数 学 】

問 題		正答数 (%)	部分 点数(%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問 題		正答数 (%)	部分 点数(%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	
1	1	98.4		1.6	0.0	4	1	71.2		24.1	4.7	
	2	93.1		6.7	0.2		2	(1)	12.6		68.0	19.5
	3	96.1		3.7	0.2			(2)	19.7	48.2	12.6	19.5
	4	79.5		18.7	1.8	(3)	3.0	2.2	51.5	43.2		
	5	83.1		16.1	0.8	5	1	63.9		30.2	5.9	
	6	88.6		10.5	0.8		2	51.3		41.0	7.7	
2	1	80.1		19.5	0.4		3	11.6		49.5	38.9	
	2	92.5		5.3	2.2		4	9.1		43.6	47.3	
	3	55.4		42.2	2.4	6	1	42.0		41.4	16.6	
	4	75.5		22.9	1.6		2	(1)	12.0		58.4	29.6
	5	42.4	4.3	41.5	11.8			(2)	1.8		43.6	54.6
3	1	85.6		14.0	0.4	3	(1)	2.0		58.8	39.1	
	2	81.5		14.8	3.7		(2)	1.0		32.7	66.3	
	3	求める過程	23.6	11.6	20.9	43.9						
		答え	36.3		21.9	41.9						

## 【 理 科 】

問 題		正答・部分点数(%)		誤答数 (%)	無答数 (%)	問 題		正答・部分点数(%)		誤答数 (%)	無答数 (%)		
		正 答	部分点					正 答	部分点				
1	1	81.5		15.8	2.6	5	1	(1)	62.7		37.1	0.2	
	2	74.4		25.4	0.2			(2)	72.2	21.4	4.7	1.7	
	3	24.5	37.4	28.6	9.4		2	(1)	13.8	3.4	65.5	17.2	
	4	59.4	11.0	25.6	4.1			(2)記号	55.8		42.4	1.9	
2	1	90.1		9.7	0.2	6	2	(2)理由	43.0	4.2	49.5	3.3	
	2	(1)	74.0	1.6	21.3			3.0	1	57.2		38.5	4.4
		(2)	64.1		35.7			0.2	(1)	46.2		50.3	3.4
		(3)位置	41.6		57.0			1.4	(2)	36.1	0.0	48.7	15.2
3	1	(3)大きさ	33.3		65.3	1.4	3	(3)	50.9		47.5	1.6	
		名称	65.1		32.7	2.2		1	12.6		67.2	20.2	
	2	使い方	50.7		49.3	0.0		7	1	(1)a	91.3		8.5
		名称	11.4		81.7	6.9	(1)b			78.1		21.9	0.0
		化学式	12.4		67.7	19.9	(2)		29.2	1.6	56.2	13.0	
3	29.6		70.0	0.4	2	(1)	68.4			31.4	0.2		
4	68.2		31.6	0.2		(2)	50.4			49.2	0.4		
4	1	80.5		18.9	0.6	8	1	(1)	29.6		70.2	0.2	
	2	40.6		54.6	4.9			(2)	16.5	17.3	55.7	10.4	
	3	24.1		75.1	0.8		2	(1)	13.8		86.0	0.2	
	4	記号	17.8		78.1			4.1	(2)	12.9	34.6	27.2	25.4
		理由	6.3	2.9	78.8			11.9					

【 英 語 】

問 題		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 題	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)		
1	1	81.7	18.1	0.2	1	a	89.9	9.7	0.4	
	2	90.9	9.1	0.0		b	72.4	26.6	1.0	
	3	85.6	14.4	0.0		c	75.1	23.9	1.0	
	4	74.8	24.9	0.2		d	69.0	27.8	3.2	
2	1	81.1	18.7	0.2	2	ア	63.9	27.8	8.3	
	2	67.1	32.7	0.2		イ	54.8	36.1	9.1	
	3	71.4	28.4	0.2		ウ	58.8	32.3	8.9	
	4	73.6	26.2	0.2		エ	37.1	58.2	4.7	
3	1	96.3	3.4	0.2	3	点 数	人数(%)			
	2	77.7	22.1	0.2		4	57.4			
	3	67.7	32.0	0.2		2	35.2			
	4	48.1	51.7	0.2		0	7.3			
	5	84.8	15.0	0.2		2点, 0点のうち, 無答が				
	6	76.9	22.7	0.4		ひとつの者の数(%)→			0.6	
	7	67.7	32.0	0.2		ふたつの者の数(%)→			2.2	
4	1	㉠	79.5	20.3	0.2	4	A	24.5	53.1	22.3
		㉡	81.1	18.5	0.4		B	44.6	31.4	23.9
		㉢	79.9	19.7	0.4		C	14.9	60.8	24.3
	2	A	83.0	12.8	4.3		D	38.9	40.4	20.7
		B	27.2	54.0	18.9	5	点 数	人数(%)		
		C	66.5	25.2	8.3		8	38.3		
	3	①	64.9	34.7	0.4		7	15.8		
		②	64.5	34.9	0.6		6	12.2		
		③	63.7	35.5	0.8		5	2.6		
	4	点 数	人数(%)				4	8.7		
			4	10.8			3	2.4		
			3	7.1			2	1.2		
			2	9.6			1	0.2		
			1	8.1			0	18.5		
			0	64.4		解答の正誤にかかわらず				
0点のうち無答数(%)→			14.2	4文以上書いた者の数(%)→			3.4			
5	点 数	人数(%)			3文書いた者の数(%)→			19.7		
		6	25.8		2文書いた者の数(%)→			58.6		
		5	18.1		1文書いた者の数(%)→			5.4		
		4	10.3		無答の者の数(%)→			12.9		
		3	6.1							
		2	7.9							
		1	4.7							
		0	27.2							
		0点のうち無答数(%)→			11.4					
		6	①	32.9	60.6	6.5				
26.6	63.1			10.3						
③	点 数		人数(%)							
	2		33.7							
	1		6.4							
0	59.9									
0点のうち無答数(%)→			9.3							